

今の夏の

オリンピックは中止し
コロナ対策に全力を



からさわ

32歳 地平

柄澤ちへい

希望ある東京へ全力

保健所の体制強化

コロナ対策の要となっている保健所。しかし、自民党・公明党は多摩地域の保健所統廃合を進め17ヶ所が7か所に激減。

府中市・調布市など、6市で104万人の地域に保健所はわずか1か所となっています。からさわ地平は多摩地域への保健所増設と保健師の増員など、抜本的な体制強化に取り組めます。

都立病院は都立のままで

府中市民にとって医療のより所となっている都立多摩総合医療センター。小池都政と自民党・都民ファーストなどは採算優先の「独立行政法人化」しようとしています。

「独法化」になれば感染症、難病、障害者医療などが、「不採算部門」として切り捨てられる恐れがあります。



多摩府中保健所が担当する地域

若者・学生が安心して暮らし、学べる東京

フードバンク活動に参加した経験を生かし、若者たちが希望の持てる東京をめざします。

- 生活困窮者への「定額給付金」の導入
- 若者向け家賃補助制度の創設
- 学生に対する食糧支援を都として実施
- 1人3万円の「学生応援給付金」実施
- 都立大学の学費を半減

「若者応援政策」について▶



ジェンダー平等を進め個人の尊厳を大切にす東京

ジェンダー平等を推進します。

- 女性相談事業の拡充
- 「DV相談支援センター」の増設・強化
- 「パートナーシップ制度」の実施
- 多摩地域に都の児童相談所を増設

日本共産党



東京都議会議員選挙
日本共産党
水戸市選出



若者の働き、学びを支える都政を、からさわ地平とともに

からさわさんは大学を卒業後9年間、日本共産党の専従職員として、青年学生分野で活動してきました。

学生時代に学んだ環境問題をライフワークに、地域の若者たちと**地球温暖化**や**プラスチック****海洋汚染**の学習会などにも取り組んできました。



からさわさんは「地球温暖化や環境汚染は、自分たち

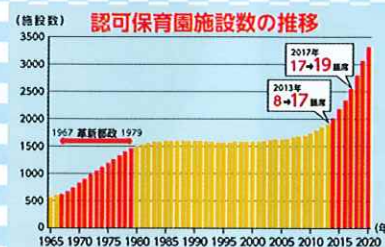
の将来にとっても**大きな問題**です。対策に消極的な政治を変えたい」と語っています。

新型コロナの影響でバイト収入が減るなど学生の生活も深刻です。「少しでも役に立てれば」と地域の青年たちが立ち上げたフードバンク。**からさわさん**も府中や調布の大学門前に毎回ボランティアとして参加、仲間たちから**頼りになる存在**になっています。



日本共産党の認可保育園が**1.7倍**に

議席増によって



2013年に躍進した日本共産党都議団は、認可保育園をつくる時の土地代を援助する条例案を提案。自民党・公明党は「パフォーマンス」と攻撃して否決しました。しかし、これがきっかけで東京都は認可保育園増設の方向へと転換。2013年以降、都の保育所予算は6倍となり、認可保育園は1410ヶ所に増えました。

学校の体育館に**エアコン**設置の道が

災害レベルの猛暑となった2018年、党都議団はいちはやく学校体育館の冷房化を申し入れ、「条例」提案も行いました。2019年度から予算化されエアコン設置が進んでいます。

補聴器購入費助成実現

65歳以上の半数は加齢性難聴と推定される中、補聴器購入費助成を提案。区市町村の取組み支援を実現しました。

小池都政に対し正面から提言

東京都の医療現場がひっ迫

東京五輪のために医療従事者（看護師500人、スポーツドクター200人）を医療現場から、協力指定病院へと引きはがそうとしています。コロナ禍で大変な医療体制へのさらなる負担はありません。



都立・公社病院の「独法化」で儲ける医療を狙う小池都政

小池都知事と自民・公明・都ファは、コロナ対応病院の約4割を担う多摩総合医療センター（府中市）などの都立病院と公社病院の「独立行政法人化」を推進しています。都の財政支出の削減が狙いです。

「独法化」になれば、採算優先の病院になってしまい、人手もコストもかかるコロナ対応は出来なくなってしまうです。

五輪よりも都民の命が大事なとき

オリンピック開催に固執する

自民党・公明党・都民ファーストの会

自民・公明・都ファは昨年10月の都議会で、共産党の反対を押し切り「大会の開催と成功に向け全力で取り組む決議」をあげました。今年の都議会でも「何としても大会成功（自民党）」、「安全安心な大会に（公明党）」、「成功に向けた取り組みを加速させるべき（都民ファーストの会）」と、小池知事に大会準備の加速を迫っています。